

生活習慣病

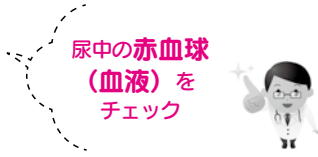

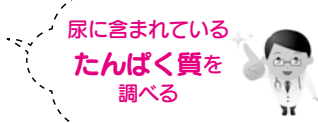
ここに注目!

身近な検査項目でありながら
特定健診にも含まれる
泌尿器系疾患の代表的検査

尿検査

腎臓で血液が濾過されてできる尿は、血液中の老廃物や不要物が溶け込んでいます。腎臓の病気は進行するまで無症状のことが多く、尿検査は重要な情報源です。通常の健診で行う尿検査は尿蛋白・尿潜血・尿糖などですが、たんぱく質や糖は体に必須の物質で、通常、尿で検出されることはありません。「陽性」の場合、腎臓の機能低下のほか、尿管・膀胱・尿道など尿の通り道のどこかに異常が疑われます。

●健診でチェックする代表的な尿検査

検査項目	正常値	異常の場合に考えられる病気
尿潜血反応 	陰性 (一)	陽性（一定以上の赤血球がまじっている）の場合、尿の色など目には見える変化はなくても、腎炎や腎結石などの腎臓病や、尿管結石・尿道炎・前立腺炎など、尿管や尿道の病気が考えられます。
尿糖検査 		陽性の場合、まず糖尿病が考えられますが、尿糖が陽性なら即、糖尿病というわけではありません（尿に糖が出始めるのは、血糖値がかなり高くなっている場合です）。
尿たんぱく検査 		陽性の場合、腎臓の病気（腎盂腎炎、ネフローゼ症候群、糸球体腎炎など）や膀胱炎、尿道炎などの可能性が疑われます。